

令和6年度（第22回）京都環境賞 受賞者及び活動内容

今年度は、41件の応募の中から、京都市環境審議会京都環境賞選考部会での議論を踏まえ、下表のとおり、19者を受賞者として決定しました。

1 受賞者

(1) 京都環境賞（大賞）及び特別賞

(敬称略、五十音順)

賞の種類		受賞者
京都環境賞（大賞）		もりた はすな 森田 蓮奈
特別賞	地球温暖化対策賞	京都音楽博覧会実行委員会・京都市リサーチパーク株式会社
	生物多様性保全賞	武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園
	循環型社会推進賞	株式会社木下カンセー
	環境担い手賞	NPO法人子ども環境ネットワーク
		同志社小学校（栽培飼育委員会・岩倉川探検隊）
	個人活動賞	よしたけ りょうと 吉武 諒人
	KES推進賞	株式会社イワタ
エコ学区賞	中立エコ生活推進会議	

(2) 奨励賞

(敬称略、五十音順)

賞の種類	受賞者
奨励賞	いきもの倶楽部KONOMI <small>このみ ゆうき</small> 許斐 有希
	株式会社アドプランツコーポレーション
	株式会社森高ローラ製作所
	京都府立北桑田高等学校
	京都府立嵯峨野高等学校
	竹間自治連合会
	同志社大学ミツバチラボ
	<small>なかがわ のりこ</small> 中川 典子
	廣瀬米穀店お米屋カフェ
	豊園エコ推進委員会

京都環境賞(大賞)

<p>もりた はすな 森田 蓮奈</p>	<p>京都御池中学校に、給食の残飯を堆肥化するミミズコンポストを1か月間設置した。また、同心児童館では、中学校の同級生たちや子どもたちにも協力してもらいながら、家庭の生ごみや地域の八百屋や米屋から集めたクズ野菜や米ヌカを活用し、現在もミミズのコンポストを継続して取り組んでいる。さらに、子どもたちがミミズと親しみながら、自然の循環を実感できるよう、時折、牛乳パックや植木鉢を使った簡易コンポスト作りのイベントも開催している。</p>
---------------------------------	--

特別賞

<p>地球温暖化対策賞</p>	
<p>京都音楽博覧会実行委員会・ 京都リサーチパーク株式会社</p>	<p>梅小路公園で開催される音楽フェス「京都音楽博覧会」のコンセプトである「環境・文化・音楽」に基づき、従来より紙パンフレット不使用、100%リユース食器の利用など、環境配慮型の音楽フェスとして取り組んでいる。2022年より「資源がくるりプロジェクト」として、同博覧会で発生した食品残さを回収し(去年は320kg 回収)、クラウドファンディングで梅小路公園に設置したコンポストで完熟堆肥作りの活動を継続している。</p>
<p>生物多様性保全賞</p>	
<p>武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園</p>	<p>雲ヶ畑に自生する希少植物である、ヤマシヤクヤク類をはじめとした希少植物の生息域外保全に取り組むとともに、生理生態に関する調査・研究を行い、得た知見を生息域内保全に活かしている。また、雲ヶ畑に自生する特徴的な20種程度の植物を植物園内に定植させるなど、雲ヶ畑の魅力発信や保全団体の活動紹介などの普及啓発を推進するなど、地域に根付いた社会貢献事業を実施している。</p>
<p>循環型社会推進賞</p>	
<p>株式会社木下カンセー</p>	<p>京都市とスマートごみ箱を活用したまちの美化等の推進に係る協定を締結するとともに、協定に基づくスマートごみ箱の寄付(24基/R4~R13)及び観光地等への設置により、ポイ捨てやごみの散乱防止など、まちの美化に貢献している。また、「2050年CO₂排出量正味ゼロ」を目指す取組として、京都市へのふるさと納税に係る寄付や、事業活動で発生したCO₂排出量をオフセットするクレジットの購入など、「脱炭素」にも貢献している。</p>
<p>環境担い手賞</p>	
<p>NPO 法人 子ども環境ネットワーク</p>	<p>子どもたち自身が大事な景色(生きもの、建物、自然、人の営みなど)に気づき、心に刻むための、段階的なオリジナルプログラムを展開している。プログラムは3段階に分けられ、①自然が苦手な子どもにも配慮し、室内で行う環境カードゲームで自然に興味を持たせ、②屋外に出て地域探検から大事な生きものを発見し、③他地域の子どもたちと大事な生きもの話し合いで心に残すことを実施している。</p>
<p>同志社小学校 (栽培飼育委員会・ 岩倉川探検隊)</p>	<p>多様な生きものがすむ岩倉川の自然環境を守るとともに、プラスチックごみ問題を解決し、人にも生きものにもよい環境づくりを目指して、岩倉川の生き物調査、地域の方々を行う岩倉川清掃活動等を行うとともに、プラスチック包装を一切使わないお菓子「未来を変えるクッキー」を、カエルデザイン合同会社や障害者就労施設「さくさく工房」と協力し、開発、販売している。</p>

個人活動賞	
よしたけ りょうと 吉武 諒人	<p>生きものを守り、生物多様性を守り、豊かな自然を守るため、自分で描いた54種類の魚の絵を使い、説明文を考えて、琵琶湖にいる魚の種類や特徴、外来魚による被害、生態系を遊びながら学べるカードゲームを作成し、200個以上販売するとともに、4つの物販イベントで日本淡水魚グッズを作成・販売し、利益の大半を自然保護団体に寄付した。また、日本淡水魚イベントの開催や、YouTubeでの配信、自然保護団体の活動にも参加している。</p>
KES推進賞	
株式会社イワタ	<p>快適で豊かな人の暮らしと地球社会の調和の実現を目指し、全社の使用電力を再エネ率100%達成するとともに、長寿命化を図るために設計された寝具を提供することで、CO₂換算量削減効果が42%であることが認定された。購入者と協力して、本取組対象の商品を購入すると、CO₂排出量を埋め合わせする（カーボンオフセット）を実施している。</p>
エコ学区賞	
中立エコ生活推進会議	<p>地域の子どもたちが参画する「探究団」を発足し、同会議が、探究団の活動の場を提供、サポートしている。堀川清掃や地域イベントに参加したり、同会議や京エコロジーセンターから事前学習を受けた子どもたちが、講師役を務め、子ども同士が仲間目線で伝えることで、環境学習のハードルが低くなり、知識や技能が深まるなど、子どもたちの環境意識が向上した。</p>

奨励賞

いきもの倶楽部KONOMI <small>このみ ゆうき</small> 許斐 有希	<p>京北地域で子どもたちと共に生物を探し、観察・講義等を実施するなど、環境教育や生物関連のイベントを企画・運営を行っている。また、生物の研究をする学生たちも交え、一般市民とアカデミアが接する場を創出している。さらに、ジビエ等の食についてもテーマとして扱うことで、様々な点から京北の生物多様性の魅力を紹介し、交流人口の増加や地域活性化にも貢献している。</p>
株式会社 アドプランツコーポレーション	<p>事業活動として自然再生を行った「京都らしい」環境要素（アカマツ、竹林、水田）について、寺院、農業団体、伝統行事団体等と連携して維持管理活動を行っている。また、自然を再生した副産物を活用して、カレーやアロマオイルなどの6次化商品も開発・販売し、収益を地域の自然再生活動資金として寄付している。</p>
株式会社 森高ローラ製作所	<p>使用済み切手、ペットボトルキャップ専用の回収BOXを設置し、回収した売却金を寄付している。また、社内で消費や活用できない物品を募ってチャリティバザーを開催しており、収益金は社会福祉施設に寄付している。環境保全活動を会社が先導することで、より身近に感じてもらえるように取り組んでいる。</p>
京都府立北桑田高等学校	<p>総合実習の中で、山林管理に取り組んでおり、山林内で放置され、景観悪化や自然災害にもつながる枝葉をウッドチップ化することで、山積された枝葉を解消し、資源が林内で循環する取組を行っている。また、チップ化した枝葉から腐葉土を作成し、地域の農業者への販売、地域の小学生との植林活動にも活用し、森林資源の循環とともに次世代へつなげる取組を行っている。</p>

<p>京都府立嵯峨野高等学校</p>	<p>茶道部・デザイン工芸部・美術部に所属する生徒が、校有林を研究フィールドとして活動する「校有林調査ラボ」の生徒達から植物・地形・土壌などの講義を受け、「地球温暖化」、「生物多様性保全」などの多面的機能について学び、環境保全への関心を高めている。自らの手で陶土を採取し、陶器を作成し、茶道部では、自ら作成した茶碗でお抹茶を嗜んでいる。</p>
<p>竹間自治連合会</p>	<p>公園清掃で回収した落葉を堆肥化することで、ごみの減量を図るとともに、その堆肥を利用して、公園の花壇で源氏藤袴会と連携し、絶滅危惧種であるフジバカマを育成している。また、リユース食器や環境啓発ブースの設置など、学区内の祭りのエコ化や啓発にも取り組み、「京都市認定エコイベント」に認定登録された。</p>
<p>同志社大学ミツバチラボ</p>	<p>大学院の授業科目などで、都市養蜂の作業、ミツバチの生態や環境問題に関する文献の輪読と対話を行っている。養蜂作業を通じて、人とミツバチとの関わり及び蜜源への関心が高まり、エネルギー問題など環境意識や自らのライフスタイルなど意識の変容が見受けられた。中には単位取得後も継続してミツバチラボの活動に参加する学生達がいる。企業と循環型社会に関するイベントの協働開催、材木を用いて生き物との共生を考える環境教育プログラム開発が始まるなど副次効果も創出している。</p>
<p>なかがわ のりこ 中川 典子</p>	<p>女性では初めてとなる銘木師として、銘木の魅力を多くの人々に伝え、銘木の販売や加工、床の間の意匠の選定、京都の町家再生、新しいモダン木の空間・家具・建築施工に従事している。様々な講演会やメディアにおいて木の活用が環境を守ることが繋がっていることなどの知識を広めるとともに、木のワークショップなど京都での「木育」活動を推進している。また、木の文化や伝統建築を継承するとともに、木の種類や木づかいを通して、日本の森林環境を学びたい若者や海外の留学生の育成にも尽力している。</p>
<p>廣瀬米穀店お米屋カフェ</p>	<p>作り手の責任として、食品ロスない廃棄ゼロを目指して、お米を使ったグルテンフリーの商品を独自開発している。お米のプロ五ツ星お米マイスターProf. が一等上質米を使ってお米パンを製造販売し、廃棄ゼロを実践するとともに、京都に誕生した新たなブランド米「京式部」や京都米も使用しており地産地消に力を入れ、お米の新しい活用法として提案している。米農家の応援に繋がり地域活性化にも繋げている。</p>
<p>豊園エコ推進委員会</p>	<p>「もったいない」をテーマとして、生活に密着した、楽しく気軽にできるエコライフの情報の提供や、ワークショップの開催、地域イベント（防災訓練・草刈り等）での啓発活動を実施している。また、ホテル日航プリンセス京都と連携した食品ロスを意識した「親子で食育ミニ教室（2回）」などを実施し、担い手育成にも注力している。</p>